

平成31年4月1日から平成46年3月31日までの15年間を計画期間とする全国森林計画が、10月16日に閣議決定されました。この計画は、全国の森林を対象に、森林の整備及び保全の目標、伐採立木材積や造林面積等の計画量、伐採や造林等の施業の基準等を示すものであり、都道府県知事が作成する「地域森林計画」や森林管理局長が作成する「国有林の地域別の森林計画」の指針としても位置付けられるものです。

今回策定された全国森林計画のポイントは、以下の2つになります。

1つめは、広域的な流域(44流域)毎に定めている森林の整備及び保全の目標や、伐採立木材積、造林面積等の計画量について、森林・林業基本計画に示されている目標等の考え方に即し、新たな計画期間に見合う量を計上したことです(表1、2)。具体的には、充実した森林資源(図1)や増加する国産材需要等を踏まえ、林業の成長産業化に向けた資源の循環利用(図2)を推進する観点から、前計画と比べ、立木の伐採量、伐採後の造林面積等の計画量を増加させています。

表1 森林の整備及び保全の目標

区 分		現 況	計画期末
森林面積	育成単層林	1,021万5千ha	996万4千ha
	育成複層林	105万3千ha	187万2千ha
	天然生林	1,378万0千ha	1,321万9千ha
森林蓄積		209 m ³ /ha	220 m ³ /ha

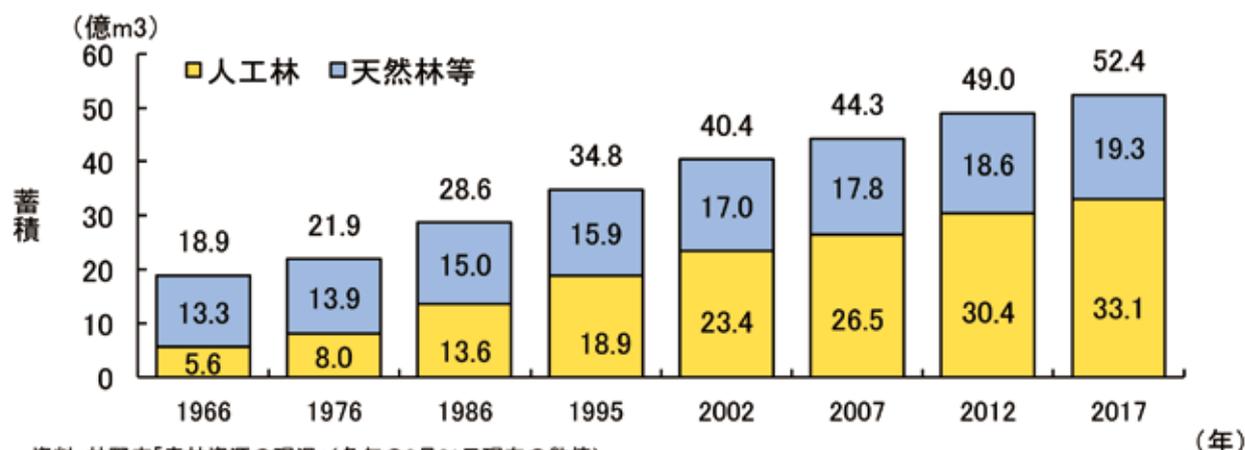
注) 現況は平成29年3月31日、計画期末は平成46年3月31日の数値。

表2 計画量

区 分		前計画量	今回策定の計画量
伐採立木材積	主伐	3億1,259万m ³	3億7,707万m ³
	間伐	4億3,267万m ³	4億4,448万m ³
	総数	7億4,526万m ³	8億2,155万m ³
造林面積	人工造林	84万6千ha	102万8千ha
	天然更新	85万7千ha	95万8千ha
林道開設量		5万9千km	6万2千km
保安林面積		1,295万2千ha	1,301万0千ha
治山事業施行地区数		3万4千地区	3万2千地区
間伐面積(参考)		726万6千ha	678万4千ha

注) 計画量のうち、「保安林面積」は計画期末(前計画量は平成40年度末、今回策定の計画量は平成45年度末)の面積。それ以外は、計画期間(前計画量は平成26年度～平成40年度、今回策定の計画量は平成31年度～平成45年度)の総量。

図1 森林蓄積の推移



資料: 林野庁「森林資源の現況」(各年の3月31日現在の数値)
注: 総数と内訳の計の不一致は、単位未満の四捨五入による。

図2 森林資源の循環利用のイメージ



図3 森林経営管理制度のイメージ

森林経営管理制度とは



2つめは、平成28年の前計画の変更以降における状況の変化や今後より重視していくべき事項について以下の記述の追加を行ったことです。

具体的には、

- 平成31年4月の森林経営管理法の施行に伴う森林経営管理制度(新たな森林管理システム)の導入(図3)
 - 平成29年7月の九州北部豪雨の流木災害を踏まえた流木対策の推進(図4)
 - 花粉症対策に資する苗木の供給拡大を踏まえた花粉発生源対策の強化(写真1)
 - 平成29年7月にとりまとめた報告書『「地域内エコシステム」の構築に向けて』を踏まえた木質バイオマス利用の推進
- について記述の追加を行いました。

本計画に即して、今後とも、国、都道府県、市町村、森林・林業・木材産業関係者等の緊密な連携の下で、森林資源を有効に利用しつつ、適切な森林の整備・保全を進め、森林の有する多面的機能の持続的な発揮を図っていきたいと考えています。

写真1 花粉症対策に資する苗木の一例(少花粉スギ品種)



一般的なスギ(枝先) 少花粉スギ品種(天竜4号)(枝先)

提供：国立研究開発法人 森林研究・整備機構

図4 流木対策のイメージ



間伐等による根系等の発達促進



流木捕捉式治山ダムの設置